

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101379		
法人名	社会福祉法人致遠会		
事業所名	社会福祉法人致遠会 グループホームサンハイツ夢が丘		
所在地	長崎県長崎市小江原5丁目25-10		
自己評価作成日	平成30年 9月10日	評価結果市町村受理日	平成31年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成30年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それまでの生活に添って、できる限り地域の中で生活できるように支援していく。御自身のできる事を継続できるように時には一緒に外出したりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体移行し、経営理念・方針の変更や職員の入替えがある中で、利用者・家族が以前と変わらず穏やかに過ごせるよう全職員で取り組んでいる。全居室のエアコン完備や法人研修に参加する機会の増加、資格取得へのバックアップ体制は事業所の強みと言える。管理者は職員に、何事もプラス思考で考えるよう伝えている。失敗をオープンにし、改善に繋がる方法を職員其々が考えて実行に移し、車椅子自走やトイレまでの介助歩行が可能になった事例がある。職員間の連絡ノートには「ありがとう」や感謝の言葉が記され、互いへの思いやりが窺える。介護度が増す中、入浴や排泄をせかさずゆっくりと、本人の体調や気分に合わせて調整したり、散歩したい利用者には、時間の許す限り付き添うなど、一人ひとりを大切に思い、理念に沿った支援に努める事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を行い、それに基づき、サービスを提供している。	理念を事務室や各所に掲示し、朝に唱和を行っている。新人職員には法人のオリエンテーションだけでなく、理念を詳しく紐解いた冊子を基に勉強会があり、各自が冊子を所持している、職員は、形や時間に捉われず、利用者一人ひとりの状況を見極め、力を引き出す支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの協力で畑での作業、収穫等を併設のデイサービスも含めて行っている。	自治会に加入し、回覧板や副会長から情報を得ている。事業所の畑の管理をボランティアにお願いしており、収穫時には利用者と園児、近隣との交流がある。地域祭りは職員が協力し利用者も体調次第で参加しており、“ありがとうフェスタ”に参加予定があるなど近隣とは顔なじみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会から地域行事の相談等対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、現状報告し参加者と情報交換を行っている。	規定のメンバーで年6回、地区公民館にて開催している。利用者状況、ヒヤリハット、活動の報告の他、参加者からの情報などオープンな意見交換があることが議事録から窺える。地区イベント情報を活動予定に加えるなど運営に活かしている。尚、議事録内容は家族訪問時に口頭で伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの情報交換、認知症ケアサポーターの受け入れ等行っている。	包括支援センターからの依頼で、認知症サポーターを受入れている。管理者は介護認定で担当部署に出向いたり、家族の疑問点を一緒に担当に問い合わせている。行政及び法人を通じての研修案内には、積極的に参加しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の適正化の指針を掲示板に表示し、職員全員で実施している。	職員は、GH協議会の勉強会や外部講師を迎えての法人研修に参加している。管理者は、新人職員に言葉遣い一つでも拘束になりうると伝えている。また、気づきはその都度注意している。玄関施錠はなく、離設の利用者と散歩をするなど、全職員で身体拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加している。事業所内でも日々の生活の中で言葉掛け一つでも虐待にあたる事がある事を話し合いながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方がいないが、制度の内容等は研修等で学ぶ機会があれば参加していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	加算等の契約内容に変更があった際は十分な説明を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様、御家族様からの意見、御相談等、その都度検討し反映できる事は早期に対応している。御家族様の訪問があった際には必ず、意見交換を行い対応している。	利用開始時に、苦情相談窓口や体制を家族へ説明している。家族の訪問が多く、職員へ声を掛けやすい雰囲気づくりに注力している。職員が受けた意見は、管理者へ報告する体制がある。敬老会やクリスマス会時に家族会を開催している。今年度、事業所運営の説明時に家族の意見を受け、契約に関する書面見直しに繋がった事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容によって職員に権限を委譲し業務を行い、運営に携わっている。	管理者は職員会議や個人面談に限らず普段から、職員の意見を聞く場を設けている。職員の意見をもとに実践し業務改善に繋げている。研修受講や必要備品購入などは職員の希望を優先している他、介護記録の書式を見直したり、職員の作業テーブルの配置を変えたことで、効率向上に反映した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等に応じて、手当てがあり、夜勤業務の手当ても増額している。労働時間に対しては無駄な残業は認めないが、やむを得ず、時間外に業務に入る場合は時間外手当てを支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が二人一組でペアを組み、新人職員を育てる取り組みを行っている。そうする事でベテランの職員も新たな気づき、知識の習得に努力している。研修参加、資格取得を積極的に勧めている。研修参加に掛かる費用は法人で負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の施設見学や研修参加、グループホーム連絡協議会での研修参加等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く為に御利用者様と一緒に作業を行いながら話しをして、様々な意見が汲み取れるように実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が訪問した際には必ず意見交換を行い、状態の変化があった場合、現状とこれからの対応等を話し合いながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスの内容に対して、事業所、御家族で連携して対応して行く事は話し合い対応している。定期受診等で御家族対応をお願いしているが、難しい場合は提携医療機関も含め話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に置いて、御自身で出来る事はなるべく行って頂いている。洗濯、片づけ等、御利用者様同士で行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問、外泊、外出等、自由に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の友人の訪問、以前、教会に通われていた方は神父様の訪問等があり、関係性が途切れないようにしている。	本人・家族の話をもとに生活歴を把握し、基本情報を収集している。現在、個別ケアを充実させるために、フェイスシートの内容充実に取り組んでいる。家族や友人、神父など自由に訪問があり、職員は継続的な交流を支援している。家族と外食したり、本人が自宅へ帰宅するための支援体制もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士で洗濯物をたたんだり一緒に行っている。御利用者様同士で助け合う事もよくあるが、お互いが過剰にならないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ1年は利用終了の方はいないが、そういう場合があっても、連絡、相談等の対応は行っていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から思いや要望を把握するように努めている。要望を伝える事が難しい方に対しては御家族様に以前の過ごし方等の情報を頂きながら検討している。	事業所のスケジュールではなく、利用者の生活歴や意向をもとに、本人本位の過ごし方を検討し支援している。職員は、利用者との会話やコミュニケーションを重視しており、会話が困難な場合は、利用者が表情で答えやすいよう、問い掛けしている。職員は利用者の思いは、本人の言葉をスタッフノートに記録したり、口頭で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等、御利用者様、御家族様がお話して頂ける事から把握に努めている。以前、利用していたサービス機関等からの情報収集も行い、全職員で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に現状の報告を行い把握に努めおり、毎日、日誌等に記録を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメント、モニタリングを行い、現状にあったプランを作成するようにしている。	長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標で介護計画を作成している。利用者の入退院や状況に応じて、アセスメント、モニタリングを行い、現状に合わせた見直しがあるが、家族に説明のみを行い、署名を取っていない。新体制になり、新たにフェイスシートの取り直しと書式の変更を進めているところである。	元々の生活歴を基本に、利用者の会話や表情、家族からの聞き取りなど意向の把握に努め、介護計画に反映させることが望まれる。また、本人・家族への説明だけではなく、承諾・署名のもと実践することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌内に記載できるようにしている。水分、食事、排泄状況等、別紙で記載できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に変化があった場合はその都度対応している。医療的な部分等は提携医療機関、同一法人内の訪問看護に相談を行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2で述べたように地域ボランティア、併設デイサービスと共に畑での作業等と一緒にいたり、外出行事等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との関係は良好で緊急時等の対応も適切に対応して頂いている。外傷の場合は近隣整形外科に対応を相談している。	協力医やかかりつけ医の往診がある。家族対応のかかりつけ医受診の場合は、受診結果を職員と共有している。また、皮膚科、歯科の往診もあり、外科は初回が受診で、後は往診で対応している。法人内の看護師に気兼ねなく、相談ができる状況にある。緊急時は、主治医の指示のもと適切な医療を受けられるよう整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師不在の為、緊急時や変化があった場合は提携医療機関に相談している。また同一法人内の訪問看護に相談できる状況にある為、状況に応じて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、連絡、相談を行いながら対応できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行っていない。重度化に対しての説明は前事業所との間でどのような説明でどのようなやり取りがあったか不明な部分がある為、再度、見直しを行っている。	重度化した場合における対応にかかる指針があり、利用開始時に説明し同意を得ている。管理者は、重度化した場合や終末期には、主治医の指示のもと、医療設備が整った施設との連携があることを家族会にて伝えている。利用者の状況や家族の協力等、話し合い承諾を得ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で対応力に差がある。その為、状況に応じての判断を身に付けられるように指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	自己点検は毎月実施しているが、訓練が実施できていない。併設デイサービスと合同で行うように計画している。	年2回、消防署立会いの火災訓練を実施している。毎月、埃や消火器などの自主点検を実施しているが、消防署からの評価を次に繋げる訓練がない。また、近隣参加もない。自然災害マニュアルはあるが、具体的な対策にまでは至っていない。次回は、併設デイサービスとの合同訓練を行う予定である。尚、備蓄は法人管理としている。	実際の有事の際に、職員が落ち着いて行動するために、消防署の評価を分析し、改善へ繋げる訓練実施が望まれる。また、近隣の訓練参加にも期待したい。大雨や台風は、情報にて予知できるが、予期せぬ自然災害への具体的な備えに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念の唱和を行い、それに基づいて行動するようにしている。言葉遣い等、おかしな点はその都度注意している。	職員は理念に基づき、自分の家族がされて嫌な声掛けや対応をせず、人格を尊重した支援を実施している。また、利用者が前向きな気持ちになるような声掛けを心掛けている。トイレ誘導や失敗時など、羞恥心に配慮して対応している。職員は守秘義務を厳守し、書類管理も徹底している。ただし、写真仕様の同意書面を現在整備中である。	ホームだよりやホームページなどに使用する写真の取り扱いについて、書面整備を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御自身で決定できるような働きかけを行っている。コミュニケーションが取りにくい方に対しても選択肢がある質問をするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等、こちらの都合でお願いしたり、変更をする事があつたりするが、その際は御本人に説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自身で選択可能な方は御本人に選んでいる。難しい方は一緒に検討している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、昼食は外部発注している。夕食メニューは担当職員が考え決定しているが、御利用者様の希望を聞き、柔軟に変更して対応している。	利用者のリクエストをもとに、昼食の外部業者を決定している。他の食事は、栄養士の資格を持つ職員が、利用者の希望や旬の食材をもとに、献立を作成している。利用者も皮むきなど、下準備を手伝っている。嚥下に合わせた盛り付けを工夫している。そうめん流し、たこ焼き、誕生会など、行事に合わせ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量は毎日記載し食事形態もミキサー食等に変更したり柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。必要に応じて介助を行っている。医療機関との相談も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら対応している。できる限りトイレでの排泄ができるように努めている。	事業所では、昼夜ともトイレでの座位排泄を支援している。自身でトイレに行く利用者の場合、職員はさりげなく見守り状況を確認している。排泄状況は時系列で排泄チェック表を作成し、支援内容を検討している。また、利用者ごとのトイレ誘導の声掛けを検討することで、失敗のないスムーズな排泄に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しながら、食事、水分、運動等に気を配り対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設デイサービスと共有している為、午後からの週に2回～3回は入浴できるように対応しているが、その日の状況に応じて変更が可能な場合は対応している。	グループホームは、入浴時間が午後となっている。週2回、夏は3回の入浴支援を実施している。状況に応じ、シャワー浴を行うこともある。入浴拒否時は、声や時間を変え誘導しているが強制はしない。入浴は利用者がくつろげるよう、利用者のペースを優先している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前はほとんどの御利用者様が日中はリビングで過ごしていたが、食後等、自室で休みたい方は休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いがないようにダブルチェックを基本に対応している。服薬内容に変更があった場合は必ず、全職員と話し合い確認を行い、状態に変化があった場合は主治医に報告している。服薬時は必ず飲み込む所まで確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や興味のある事、テレビを観る際もどのような趣向の物が好みか知るよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置的にその日の突然の外出が難しいが、事前に申し出があったり、企画しての外出は対応している。	天候や体調に応じ、事業所周辺を散歩している。車椅子の利用者も同様に出掛けている。短時間でも職員の体制を整えば、近所にある事業所の農園で出掛けたりドライブなど、当日対応している他、落ちつかない利用者の気分転換の散歩も支援している。初詣、祭り見物など、季節ごとに外出を企画し、全員で楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自身で管理している方は1名しかいない。外出時等で買い物希望があった際は一緒に物品購入までは行うが、支払いはこちらで一旦立て替えて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話、手紙のやり取りはほとんど行われていないが、御本人様の希望、御家族様の協力があれば対応可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、トイレは毎日掃除を行っている。居間等は現在、レイアウト見直しを行っており、空間を広く活用する為に不要な物は撤去している。	リビングの窓からの日差しは、カーテンで調節しながら穏やかな彩度である。今年度、調度類の配置を見直し、リビングを利用者が広々と使えるよう工夫している。利用者は、調理手伝い、テレビ視聴、ティータイムには好きな飲み物を飲み、ゆっくりと寛いでいる様子が窺える。職員によるトイレやリビングの清掃で清潔な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不要な物は撤去し御利用者様が休息を取れるスペースを確保できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで居室にエアコンが設置されておらず、夏場の暑さや冬場の寒さに対する対応が不十分であった。今夏より全室エアコンを取り付け、室温管理を行えるようになった。居室の床部分の痛みが目立つ為、改善が必要。	利用者が事業所の暮らしに馴染むよう、持込みの制限はなく、テレビを配置し写真や絵を飾り、調度類の配置は利用者の希望を優先している。ベッドは各自で持ち込んでいる。窓は明るく開放的で、換気もよい。エアコンを完備し、職員が掃除機やモップを使い毎日清掃しており、快適で過ごしやすい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札が設置してあり、トイレ、浴室も表記してあるが、もう少し工夫の余地がある。		